

第3回 駿河海岸漂砂管理計画検討委員会

議事要旨

1 日時および場所

日時：平成16年11月16日（火）

13：30～16：30

場所：パルシェ7F第1・第2会議室

2 議事次第

- 1) 開会
- 2) 主催者挨拶
- 3) 委員長挨拶
- 4) 議事

第2回委員会議事要旨確認について

検討フロー及び緊急越波対策の経過報告について

モニタリング結果報告について

海浜変形モデルの検討について

試験突堤周辺の漂砂機構と対策工法の検討について

漂砂管理計画について

その他

- 5) 閉会

3 第2回委員会議事要旨確認について

- 第2回委員会における各委員からの意見を取り纏め報告と確認を行った。

4 検討フロー及び緊急越波対策の経過報告について

- (1) 検討フローに対する意見等

- 特になし

- (2) 緊急越波対策の経過報告

- 1) 藤守川～栃山川の越波対策の経過報告に対する意見等

- 離岸堤による漂砂移動の阻止の影響は、離岸距離が岸から80mと既設の消波堤と近いために、堆砂ポケットがあまり大きくないので、漂砂下手側への影響は少ないものと思われるが、モニタリング調査にて確認すること。

2) 試験突堤下手の緊急対策について

- 台風 0410 号による波は越波が生じた台風 0221 号とほぼ同じ規模の波であったが本年度は越波が生じておらず、被覆工によって養浜材の計画断面が確保されたためと考えられる。しかし、波の収斂特性について引き続き、今回の来襲波浪の詳細な検討によって明らかにしていくことが必要と考えられる。
- 被覆工の断面確保による越波防止の効果は認められるものの、台風による波浪で一部破損したことに対してネットの材質等の対策方法を考える必要がある。

5 モニタリング結果報告について

(1) モニタリング調査の説明内容

1) 平成 15 年度調査

波浪観測（試験突堤周辺の 3 地点）

養浜過程調査

面的測深調査（海底谷～試験突堤上手）

大井川河口部地形調査

2) 平成 16 年度調査

波浪観測（試験突堤周辺の 1 地点の継続）

横断測量（試験突堤周辺）

底質調査（駿河海岸全域）

大井川河口部地形調査

(2) 調査内容に対する意見等

- 波浪観測結果より、波の収斂による波高の増大が、 $H_{1/3}$ に比べ H_{max} が非常に大きくなっているのが特徴的である。 H_{max} に相当する波は波長が長く屈折しやすいため、収斂の影響が顕著に出ているものと考えられ、越波の一要因として今後個々の波浪データについてさらなる検討による整理が必要である。
- 養浜後の海浜変形調査、面的測量調査、底質調査、大井川河口部の地形測量調査については、特になし。

6 海浜変形モデルの検討について

(1) 説明内容

海浜変形モデルの分類と適用範囲

駿河海岸に適用する海浜変形モデル

汀線変化モデルによる昭和 40 年代からの時期的な再現計算と結果

3 次元地形変化モデルによる計算結果

(2) 検討内容に対する意見等

- 昭和 61 年～平成 9 年の期間で一時的に漂砂量が増えている条件で再現を行っているが、深浅測量結果を見ても漂砂量の大規模な変化に影響を与えるイベントが認められないので、将来の海浜変形の検討においては、昭和 50 年代からの漂砂量の変化と同一の条件として考えても支障なしと考えられる。
- 試験突堤周辺の汀線変化モデルの再現性について特に問題はない。

7 試験突堤周辺の漂砂機構と対策工法の検討について

(1) 説明内容

試験突堤周辺の汀線変動履歴

試験突堤周辺の漂砂移動

対策案の検討

試験突堤近隣のコンクリート壁の影響

(2) 検討内容に対する意見等

1) 試験突堤周辺の漂砂機構

- 試験突堤は漂砂上手側の汀線維持に効果が認められる。
- 試験突堤下手側については侵食対策が必要であり、汀線変化モデルによる地形予測や波の収斂計算結果から 600m 区間(No.14～11 付近)が対策の必要範囲と考えられる。

2) 対策案の検討

- 各案に対する意見
案（試験突堤の継続）は下手への侵食の影響が大きい。
案（試験突堤を撤去）は上手への侵食の影響が大きい。
案（試験突堤下手のNo12+100 短突堤）は短突堤下手の侵食が大きい。
案（消波堤を設置）は汀線を維持する効果が大きいものの、汀線付近をブロックで覆ってしまうため環境面について、別途考慮が必要である。
案（有脚式離岸堤）は他案に比べ事業費が大きい。
- 以上より 案、 案について、今後対策工法として検討を進める。なお、 案については撤去したブロックの突堤流用案として 案と同様に検討する。
- また、有脚式離岸堤の 案は1基にした場合の設置位置や規模による対策効果を踏まえたコスト低減について検討する余地はある。

3) コンクリート壁について

- コンクリート壁の周囲を保護することによる安定性を確保すれば、現況の浜の確保に効果が期待出来るため撤去の必要はない。

8 漂砂管理計画

(1) 説明内容

- 駿河海岸の漂砂機構及び土砂収支を踏まえた検討課題
- 駿河海岸における施設計画の現状
- 大規模突堤計画の概要

(2) 今後の検討に対する意見等

- 現状での浜の効果、計画施設整備による効果を踏まえた今後 20～30 年後の海浜予測を行ったうえで、問題が生じる箇所について対策案（施設または養浜）を検討する。また、今後の施設の施工順序についても配慮する。
- 試験突堤周辺の越波対策については、堤防の嵩上げも対応策のひとつと考えられるので地形状況から、波が特別に集中する地点があるのかどうか、今後もデータを整理する必要がある。
- 特に大井川左岸側について将来的に浜を回復するためには、大井川河口からの供給土砂を増して人為的に沿岸に運ぶ漂砂の供給ルートの開発が必要である。そのためには、河川から海岸に係わる各管理者の協同が必要である。また、大井川河口部において左岸側への土砂供給を促進する手法の検討も必要である。

9 . その他

- 試験突堤周辺の対策については地元からの要望も強く緊急性が高いため、本日の意見を踏まえた対策工法選定の検討を進め、その結果について各委員への個別説明を今年度中に行うことで了解を得た。

以上